

最後の代官

⑨

忠左衛門日記

明治元年（1868）

鳥羽・伏見の戦いのある
1月7日の鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍に付いて敗れた小

綾部を通過した落武者たち

目を開けて大声を出すなど興奮した様子だったという。

小浜藩士や会津藩士が山家で投宿

結局、小浜藩

は、綾部を通過して福井

やってくるという住民

竹下は若松屋の門に

の殿様は山家へ来る途中

は、綾部を通過して福井

たちは、乱暴な落武者に

「若狭本陣」と書いた紙

に宿泊したため若松屋に

者たちは東山町にあった

何かされるのではないかと警戒し、慌てて由良川

を張ってもらおうように頼

は泊まらず、昼食だけを

旅館「若松屋」に宿泊す

と警戒し、慌てて由良川

むのだが、この時、菅生

若松屋で取った。菅生が

るのだが、この時の様子

の渡し舟を止めたり、武

はあまりの怖さに「手が

その費用を請求したとこ

を同旅館の主人の菅生と

器を持って集まったりし

震えて書きにくかった

る、後日、小浜藩からの使

いう人物が克明に書き残

て対策を練ったが、翌朝

と、その時のことを記し

者が宿泊費を届けにやっ

している。

には渡し舟を再開する。

ている。

て来たとの記述もある。

その後、小浜藩の武士
士・竹下権十郎が本陣よ
りも先に山家へ着いて、
若松屋に同藩の殿様を泊
めてもらえるよう依頼。
菅生らは村の有力者たち
と相談し、藩士たちを泊
めると相談し、藩士たちを泊
めると相談し、藩士たちを泊

また、この騒動で藤懸
藩の上林城近辺では、落
武者たちに乱暴されない
だ。（岡田圭司記者）



落武者たちが宿泊した東山町の旅館「若狭本陣」跡（右）